

学年研究部

中学年部会

第4学年9月提案資料
横浜市立瀬戸ヶ谷小学校
佐々木 俊恵

- 1,市国語研究会 研究主題 **確かな言語能力を身に付ける国語科学習の創造**
- 2,中学年部会テーマ **身に付けるべき言語能力を明確にした個に応じた指導のあり方**
- 3,単元・教材名 **本と友だちになろう。「 白いぼうし・本は友達・本のさがし方 」**
- 4,国語教育への思い

読書的な読みの育成

「白いぼうし」は、ファンタジー作品である。その教材を通して、ファンタジーの世界のおもしろさを味わうことができる。そして、読書への世界を広げ、自分が友だちにおすすめる本ができる。そのおすすめる本の内容を自分の感想や考えを加えて紹介し感想交流することで、読書への興味を高めることができる。また、読んだ本の面白さが伝わるように、登場人物の特徴や見出しの言葉、レイアウトなどを工夫して紹介カードを書き、読書への親しみを感じてほしい。

5,部会のテーマとの関わり

本単元における「身に付けるべき言語能力」

いろいろなジャンルの本に興味をもち、読書を楽しむ力
相手意識や目的意識をもって、自分のおすすめる内容などを適切に表現する力

6,言語活動別言語能力系統表 「 読むこと 」 < 読書的な読み > (p,102 抜粋)

学年	3・4年	
自由読書	本の並べ方や分類の仕方を知り、読みたい本を探して読む。	学校図書館や地域の図書館で読みたい本を探して読む。
読書紹介 (書く)	本の帯 読んだ本の面白さが伝わるように、見出しの言葉やレイアウトを工夫して、本の帯を書く。 本のカバー 心に残る表現や感想などを短い言葉で書いて本のカバーを作る。	本のポスター・紹介カード 登場人物の特徴・筋の展開・物語の構造など、本の面白さが伝わるように、見出しの付け方を工夫して、本のポスター(紹介カード)を書く。 読書新聞 作品からイメージしたものや感想などを記事にし、読書新聞にまとめ紹介する。 物語マップ・すごろく 本の内容・構造・登場人物の特徴などに着目して、物語マップ・すごろくを作る。友達とマップやすごろくを使って遊びながら、本の魅力を伝える。

国語科学習指導案

指導者 佐々木 俊恵

- ・ 日 時 平成19年7月10日(火)第4校時
- ・ 学年・組 第4学年1組 32名
- ・ 単元・教材名 本と友だちになろう。「白いぼうし・本は友達・本のさがし方」
- ・ 単元目標
情景描写や人物描写に気をつける読み方を知り、作品をより楽しんで感想を深める。
本の探し方を知り、自分で探した本のおもしろさの中心を明確にしてカードに書き、友達と紹介し合う。

評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

おすすめの本を紹介し合う目的をもち、作品の特徴を探したり、読書の幅を広げたりしようとしている。

【書く能力】

おすすめの本の紹介カードを作るために必要な事からを選んで書いている。

紹介したい部分とその理由などをはっきりさせて書いている。

【読む能力】

場面や情景を想像させる言葉を手がかりにして読んだり、自分の感想まとめたりしている。

作品から受けるおもしろさについて、友達と受け取り方に違いのあることに気づき、自分の考えをもちながら読んでいる。

単元について

(1) 教材について

本単元は、二つの教材、三つの学習活動から成っている。まず全体で同じ物語(「白いぼうし」)を読み、シリーズ作品のおもしろさに気付く。続いて自分で探して読み、そして最後は「おすすめの本」を紹介する。この三段階の作業が密接に結びついている。

「白いぼうし」は、ファンタジーの要素を多くもち、においや色に関する表現も豊かな作品である。児童は、想像力を働かせてこのファンタジーの世界を味わうことができる。しかし、詳細な解釈や理屈に縛られてしまうと、読む児童の楽しみは色あせたものになってしまいがちである。松井さんの優しい心と、包み込む温かく豊かな表現を味わいながら作品の世界を楽しみ、児童の興味がさらに大きく本の世界へと広がっていくような展開が期待できる。また、「ハリーポッター」や「あらしのよるに」などのシリーズ作品のおもしろさに興味をもっている児童も多く、この「白いぼうし」が「車のいるは空のいる」の中の一編であることから、さらに読書活動を広めてほしい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、活発な児童が多い。学習中の発言も自分の意見をはっきり伝えようとする児童が多く、意欲的に話し合いに取り組んでいる。4月より豊かな言語活動として、日直の一分間スピーチ、音読、読書タイム、日記を継続的に取り組んできた。日直は、前日の学校生活や放課後の出来事、自分が思っていることなどについて話している。スピーチ後には質疑応答の時間を設け、意見を交流する時間を大切にしている。その取り組みによって、聞く姿勢が少しずつ定着してきた。しかし、聞き手に自分の思いが正確に伝わるように言葉を選んで話したり、伝えたいことを整理して話すことができなかつたりと、一体何を伝えたかったのか、話し手も聞き手も混乱してしまう場面も少なくない。また、作文や感想文など書くことが苦手な児童も、毎日の家庭学習としての日記を書くことによって、自分の思いを書いて表現できるようになってきている。

研究テーマについて

豊かな言語活動を通して、自分の考えを伝え合う力を高めあえる国語科学習をめざして
～表現することへの支援の工夫～

(1) テーマの具体化に迫るための工夫

- ・聞く態度の育成
日直の一分間スピーチで質疑応答の時間を設け、ただ単に聞くのではなく、話の中心をしっかりとつかんで聞けるようにする。
- ・音読学習の継続
声の量の調節や言葉のアクセント、間の取り方などしっかりと身につけられるようにするため、4年生でも家庭学習などを利用し、音読の練習を継続している。
- ・教室環境の整備
聞く姿勢とともに、友だちの意見を受けて話をするときの話し方のパターンを掲示し、意識できるようにする。
- ・個を大切にした支援の工夫
伝え合うために、児童一人ひとりの思いを大切にすることを意識させ、発言する楽しさや自信がもてるようにする。カードの下書きやノート、ワークシートなどから一人ひとりの思いを把握し、その思いをどう表現するか支援するようにする。

(2) 本単元における工夫

- ・場の設定
いろいろなジャンルの本があることを知るために、あえて普通の座席(班)にし、それぞれの紹介カードについての意見交換ができるようにする。
- ・紹介カード・一言メモの工夫

<紹介カード>

登場人物やあらすじがわかるようにし、おすすめの本に興味をもたせるようにする。また、そのカードを生かして、おすすめする側はアピールするポイントとの手立てにする。

<一言メモ>

本の紹介を聞いて、どんなことがわかったのか、どんなところに惹かれたのか、短く相手に自分の思いを伝えられるようにする。

指導計画

次	時	学習活動と内容	支援	評価基準
第一 次	1	1, 難語句や進出漢字の読み方を確認しながら「白いぼうし」を通読する。 2, 初発の感想を書き、それを交流することによって学習の見通しをもつ。	・教師が範読した後に一人ひとりが音読する。根拠をはっきりさせ、具体的に記述できるようにする。 ・色や匂いに着目している感想を取り上げ、この作品の特徴に気づくようにする。	関：物語の世界に興味をもち、初発の感想をもっている。 (感想・ワークシート)
第二 次	2	1, アニメーションをしながら「白いぼうし」のあらすじを確かめる。 2, 1の場面を音読し、松井さんの夏みかんにこめられた思いを考えるのに大切だと思う部分に線を引き、考えを書き込む。 3, 書き込んだことを発表し合い、夏みかんにこめられた登場人物の思いを考える。	・挿絵を並び変えることによって、正しい話の展開をとらえられるようにする。 ・書き込みができるような行間を広くしたワークシートを準備する。 ・見つけられない児童には会話文に目をむけるようにさせる。	読：松井さんが夏みかんに大切に思っていることを、会話や行動から想像している。 (発言・ワークシート)

	3	1, 2の場面を読み、松井さんの人柄が感じられる記述に線を引き、書き込みをする。 2, 書き込んだことを発表し合い、白いぼうし、たけのたけお君とのかかわり方から松井さんの人柄を読み取る。	・前時と同じ形のワークシートを準備する。 ・漸次の学習を確認し自分で記述を探し出させるようにする。	読：優しさやユーモアのある松井さんの人柄を自分なりに考えている。 (発言・ワークシート)
	4	1, 3の場面を読み、女の子の様子と松井さんの様子を読み取る。	・女の子の不思議なところ、松井さんの不思議なところを探し出すようにする。	読：松井さんの誠実な人柄を想像して自分なりに考えている。 (発言・ワークシート)
	5	1, 4の場面を読み、文中の指示語が指しているものを確認する。 2, 聞こえてきた小さい声や松井さんの人柄について読み取る。 3, 「よかったね。」「よかったよ。」の部分を音読で表現する。	・4場面に出てくる指示語「その」「こんな」「それ」を扱い、他にも文中にたくさんでてくることに気づくようにする。	読：松井さんの明るい人柄に気づいている。 (発言・ワークシート) 読：指示語が指し示す事柄を的確に指摘している。 (発言)
	6	1, 色やにおいを表す言葉から、「夏みかん」と「白いぼうし」のイメージを考える。 2, 「夏みかん」や「白いぼうし」の物語の中で役割について話し合う。 3, 学習を振り返り、物語のおもしろさについてまとめる。	・同じ叙述からでも人によってイメージする情景や様子が違うことに気づくようにする。 ・「白いちょう」や「女の子」の役割についても考えられるようにする。	読：「夏みかん」と「白いぼうし」のついで自分なりのイメージをもっている。 (発言・ワークシート) 読：物語の感想を書き友だちと交流している。 (発言・ワークシート)
第三次	7	1, 教科書64・65ページを読み、本の紹介カードを作る学習の見通しをもつ。	・「車のいろは空のいろ」のシリーズや教科書に載っている本を数冊紹介し、本を読む意欲をもてるようにする。	読：紹介カードを作るという学習の見通しをもっている。 (観察)
	8・9	1, 図書館の本の探し方を知り、読みたい本を探す。 2, 本の紹介カードを作ることを確認する。	・それぞれの児童の読書傾向を把握し、読書範囲を広めるのに適した本を紹介できるようにしておく。 ・今まで経験してきた本の紹介を振り返り、必要な項目を考えられるようにする。 ・紹介したい理由を明確にする。	読：紹介文を書く目的で、必要なことや伝えたいことを考えながら読んでいる。(観察) 読：紹介文を書く目的で、必要なことや伝えたいことを考えながら読んでいる。(観察)

10	<p>1, 紹介カードの書き方を考え、書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 題名 ・ 作者 ・ 紹介している人の名前 ・ おすすめの理由 <p style="text-align: right;">必ず書くもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 割付 ・ 絵 ・ 噴出し ・ 心に残る言葉や表現 ・ 呼びかけや問いかけの文 ・ わかりやすく書いている文 <p style="text-align: right;">必要なものを選ぶ。</p> <p>2, 紹介カードの下書きをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品例から作成者の工夫を見つけるようにする。 ・ 3年生の時の学習を想起させる。(本の帯作り) ・ 必ず書くものと必要に応じて選択するものを分ける。 ・ 書けない児童については、フォーマットを用意する。 	書：紹介カードに必要な事柄を選び、書いている。(紹介カード)
11 本 時	<p>1, 紹介カードの下書きを使って、書き方の工夫について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで読み合う。 <p>2, グループで話し合ったことを全体に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 良かった点、直す点について話し合う。 <p>3, 紹介カードの仕上げをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 良い点、足りない点を意識させるような声かけをする。 ・ 言語事項(赤)・表現の工夫(黄)・レイアウト(青)について色分けする。 	書：紹介カードに必要な事柄を選び、工夫して書いている。(紹介カード)
12 ・ 13	<p>1, 推敲する。</p> <p>2, 挿絵やレイアウトを工夫しながら清書をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取りかかれぬ児童には、数種類のカードを用意し、その中から選んで書けるようにする。 	書：紹介したい部分とその理由をはっきりさせてカードを書いている。(紹介カード) 読：本のおもしろさや魅力を伝えようとしている。(発言)
14 ・ 15	<p>1, 紹介カードを互いに読み合い、読んでみたい本を決めて読む。</p> <p>2, 予約カードをもらう。</p> <p>3, 読書後、短い感想を書き交流し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想の交流は一言メモ形式でわたすようにする。 	読：読んでみたい本を決め、1冊以上読んで感想を交流している。(観察・感想カード)
16	<p>1, 「4年1組おすすめの本」のカード集を作り、学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介カードのよかったところを話し合わせ、また書こうという意欲をもてるようにする。 	関：カードの書き方をまとめ、今後の活動に意欲をもっている。(発言・観察)

本時目標

自分がおすすめる本の紹介カードを作り、書き方の工夫を見つける。

本時展開

学習活動と内容	支援()と評価()
1, 前時の学習を振り返る。	<p>前時までの学習の掲示をし、必ず書くもの(題名・作者・紹介している人の名前・おすすめ理由)と必要に応じて選ぶもの(絵・噴出し・心に残る言葉や表現・主な登場人物の紹介・呼びかけや問いかけの文・分かりやすく書いている文)を下書きしていることを振り返る。</p> <p>必ず書くものが書けているか。</p>

紹介カードの書き方の工夫を見つけよう。

2, 紹介カードの下書きを使って、書き方の工夫について話し合う。

- ・グループで読み合う。
- ・紹介カードを回し読みする。
- ・付箋を付ける。
- ・良い点 ・ 足りない点 を区別する。

- ・良かった点について伝える。
 - ・書き方（レイアウト）
 - ・表現（言葉）
 - ・字が丁寧。（言語事項）

- ・絵が本の魅力を惹きつける。
- ・噴出し
- ・登場人物の紹介がわかりやすい。
- ・呼びかけや問いかけの文が読みたい気持ちにさせる。
- ・おすすめの理由

- ・足りない点について伝える。
 - ・書き方（レイアウト）
 - ・表現（言葉）
 - ・字が見づらい。（言語事項）

- ・あらすじが多くて、読みたい気持ちが湧いてこない。
- ・絵ばかりで、何を伝えたいのかが分からない。
- ・字ばかりで、読みたい気持ちが湧いてこない。
- ・作者がわからないと、同一人物の作品が読めない。
- ・どんな種類なのかわからないと、次も同じような本を読もうと思っても読もうとはしない。
- ・題名がないと図書館などで探せない。
- ・登場人物の紹介がないと、どんなお話なのかわからない。
- ・噴出しで何が伝えたいのかわかりにくい。
- ・呼びかけや問いかけの文がない。
- ・おすすめの理由がわからない。

3, 付箋に書いてもらったことについて、意見を交換する。（グループ）

- ・貼ってもらった付箋に対して疑問に思ったことや、わからなかったことなどについて話し合う。
- ・グループでどんな付箋があったのか、発表する内容を話し合う。

4, 工夫している点・工夫した方がよい点について全体に伝える。

- ・本書きをどのようにすればよいか分かった。
- ・他のグループと同じで、良い点・足りない点がか

カードを使う相手意識を持たせ、丁寧にカードを作成するように促す。

本時はカードの下書きを使って、書き方の工夫について話し合うことを確認する。
グループは生活班で行う。

工夫の点や足りない点ができるように、付箋を貼る。
付箋は、言語事項（赤）・表現の工夫（黄）・レイアウト（青）について色分けする。
良い点と足りない点とを区別するために良い点と足りない点＜青＞とする。

どんな点がよかったのかなど、具体的に紹介カードを提示して説明するように声かけをする。

足りない点が多い児童には、良い点はないかと声をし、支援する。

下書きを生かし、工夫することができたか。

<p>った。</p> <p>5, 次時の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下書きを元に、紹介カードの仕上げをする。 	
--	--

本時の評価

自分がおすすめる本の紹介カードを作り、書き方の工夫を見つけることができる。

8, 考察

(1) 本単元の工夫について

・場の設定

この単元では、紹介カードを書くことによってより多くのジャンルの本があることを知って欲しかったために、あえて座席を生活班にした。そのため、いろいろなジャンルの本があることを知り、興味をもって本を読もうと意欲的に本を手にとっている児童が多かった。しかし、児童がおすすめる本がそれぞれ違うため、それぞれが紹介する本の内容を知らずに相互評価してしまった。ジャンルごとに場を設けて班づくりをした方が、本の内容を全員が共有できているためスムーズに話し合いができたかもしれない。意見交流させるためには、事前にある程度それぞれ本のあらすじを知れるような時間の確保が必要であった。

・紹介カード・一言メモの工夫

< 紹介カード >

登場人物やあらすじ、自分がおすすめる理由などが明確になり、おすすめた本を読みたいと興味をもっている児童がほとんどであった。おすすめる側は、必ず紹介しなければならない内容を項目立てて明確にしていたため、本からどんな読み取りをしたらよいのかポイントをしばらく読み取る必要性に気がついている児童もいた。

カードに書く内容について項目立てていたため、意見交換する場合もどんな内容で話し合うのかについてあまり戸惑うことなく、意欲的に意見交流していた。

読み手に自分の思いを伝えるためには、どんな書き方をしたらよいのかについて友だち同士で声を掛け合い、「こうした方がいいんじゃないの?」と検討する姿が多く見られた。しかし、自分の思いが強く、ついつい長々と感想を書いている児童も少なくなかった。カードには、なるべく自分の思いを端的に要約して書くことを指導する課題があげられた。

< 一言メモ (付箋) >

付箋の色分け(言語事項:赤,表現<言葉>:黄,書き方<レイアウト>:青)をしていたため、どんな観点でお互いに評価するのかについて明確に話し合うことができていた。そのため、話し合いでは筋道があまり反れることなく話し合いが行われていた。しかし、言語事項と表現についての区別が少し難しい児童が何人かいた。そこでは、個に応じた指導として付箋の色分けの定義を再確認し、正しく区別するように助言した。

書くことが得意な児童は、たくさんの友だちのカードを読み意欲的に付箋を貼る姿が見られたが、書くことが苦手な児童にとっては書くのに必死だったため、そこで少し差ができてしまった。書くことが苦手な児童にとっても意欲的になれる指導が課題にあげられた。

書く内容について、良い点とアドバイスする点の2つの点について書くように指導していた。しかし、アドバイスする点ばかり書く児童が何人かいた。机間指導する中で、良い点とアドバイスする点両方を見られるように声かけを行った。このような視点は、国語の教科だけにかかわらず他教科についても育てたい視点であり、今後とも指導し続ける必要性を感じた。

付箋をカードに貼るやり方は、児童にとってとても親しみやすく意見交流が積極的にできる方法であった。しかし、付箋の粘着力が弱いこともあり、すぐカードから外れてしまうという残念なことも多かった。貼ったり外したりするメリットもあったのだが、紹介カードの付箋を貼った下書きを手だてに本書きしようとするためには、貼った付箋がとれないようにするための工夫も必要だという課題があげられた。

(2) 本單元における「身に付けるべき言語能力」

いろいろなジャンルの本に興味をもち、読書を楽しむ力

紹介カードを作成することにより、作品の特徴を探しながら読んだり、自分のおすすめする理由やこだわりを探しながらよんだり、読書に楽しみ幅を広げて読むことができていた。また、友だちの紹介カードを読むことによって、様々なジャンルの本があることに気づき自発的に読書に楽しむ姿が見られた。しかし、自分の好きなジャンルが決まっている児童は、読む本のジャンルが偏りがちでもある。様々なジャンルの本に親しんもらうためには、今後も校内の読書タイムなどを生かしながら、教師自らもいろいろなジャンルの本をブックトークする機会を設けることも必要だと感じた。

相手意識や目的意識をもって、自分のおすすめする内容などを適切に表現する力

読み手に自分の思いをアピールするためには、どのように表現すればよいか、どんな表現方法が「あっ!。」と思わせることができるのかについて意識しながら紹介カードを作成したり、友だちと意見交流したりすることができた。この單元だけ相手意識や目的意識をもって取り組むのではなく、他教科でもこのような見方で取り組めるように今後もこの力が育成できるように継続的に取り組みたいと思う。